

安倍政権 漢字1文字で表すと…

衆議院が28日解散した。前回総選挙から政治の在り方を考えさせられた2年10ヶ月。西三河の有権者7人に、安倍政権の印象を漢字1文字で書いてもらった。



古居さんは「失」



倉田さんは「危」



新美さんは「信」

西尾市一色町の無職松井浩さん(七〇)が選んだのは「進」。歴代首相が手を付けなかつた事柄に、安倍晋三首相が道を開いたと考えた。「国連平和維持活動(PKO)で、宿営地の共同防衛や駆け付け警護ができるようになつた。きれいな政治はできない。やるべきことを進める姿勢は評価したい」と話した。

岡崎市康生通南の前田はな子さんは、「(元の)岡崎市立池町小学校の校舎は、今でも残っています。今池町の環境

安倍首相が掲げた「地球儀を俯瞰する外交」を評価。「精力的に世界各国を訪れるたび、びっくりした」と「驚き」を書いた。今回の総選挙については「どんな結果になるか分からないが、戦争のない平和な国が続くことが一番」と話す。

一方で、前回総選挙で圧勝し、「安倍一強体制」を背景にした強引な政治運営に、批判的な声も少なくない。

市民団体代表古居敬子さんは（六）は、憲法改正を進めようとした」とで安倍首相への信頼が失われ、森友、加計学園の問題で説明責任を選んだ。「すてきな憲法なのに、なぜ変えられるのか理解できませ
ん。日本を戦争に向かわせているように感じます」と憤る。

高浜市八幡町のパト^ト倉田利奈さん（四）は、安全保障関連法を強引に成立させた安倍政権に危なつかしさを感じ「危」と表現。「今

の米朝対立も戦争になれば安保関連法を理由に日本も巻き込まれる。安倍さんはトランプ大統領に自重を促すべきなのに、一緒にになって制裁強化を訴えていい」と不安げだ。

刈谷市井ヶ谷町の愛知教育大大学院二年の大木春菜さん（三）は、不安の「不」を選んだ。ニュースはあまり

「戦争ができる国になれば今ある暮らしが壊れてしまうのでは」と吐露した。岡崎市羽根町の会社員小野彰之さん(三七)は憲法改正や集団的自衛権などの議論を通して、「考」を書いた。「財政や福祉制度はどうなっていくのか。政治に興味はなかったが、経済の好転も全く感じられない中、社会心境だ。

「信」と書いた、岡崎市羽根町で時計店を営む新美明彦さん(五二)は「安倍政権を信じていいのか、信じない方がいいのか迷うけれど、代わる人がいなかつたから信じるしかなかった」と語る。ただ「経済政策を推してきたが、この二年十力月で景気が良くなつた実感はない」と複雑な心境だ。



松井さんは「進」



前田さんは「警



本本音は「不」



小野さんは「考」

見ないが、安保法制に関する議論は耳に入つてくる。大学院では芸術の創作に励む大木さんは「平和だからこそ

考
える
選
ぶ

10.22 衆院選

あいだ